

# 平成24年度 学校評価結果

徳島県立穴吹高等学校

○ 評価基準 A:十分に達成できた / B:概ね達成できた / C:十分には達成できなかった / D:全く達成できなかった

重点目標	評価指標と活動計画	評価	総合評価	次年度への課題・改善策
1 主体的・積極的に学習に取り組む姿勢を育成できるような授業の工夫をする。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価 B  (所見) 評価指標については、目標を下回る結果となった。活動計画に関しては計画通りに実施出来たが、参観シート返却やアンケート実施後の対応に不備が残った。 生徒の授業に取り組む姿勢は、学年が上がるほど積極的になっている。これは、単位制で自分の進路に応じて講座を選択することにより、授業への積極性が出てきたからだと考えられる。興味をもてる授業を教師が実践することが、生徒の授業への積極性につながると考えられるので、授業方法や内容の改善をさらにすすめていく必要がある。	○ 授業見学の回数は参観シートの提出枚数で計算しているため、参観シートの確実な提出を呼びかける。また、公開授業週間についても学校行事等の日程を考え、多忙でない時期に設定する。  ○ 参観シートの返却が2月になってしまったので、集計後すぐに返却し、返却された参観シートを授業実践力向上につなげてもらえるよう呼びかける。  ○ 生徒自らが学び取ろうとする姿勢を育てる授業づくりのために、各教科での教科会を定期的に行う。
	1 他の教員の授業を前・後期、各3人以上の授業を見学する。 教員(3人以上)の授業見学率100%を目指す。	1 教員(3人以上)の授業見学率 [前期] 93% [後期] 90% 年間平均 92%		
	2 生徒・教員による授業への評価 ① 生徒への授業アンケートで「授業にまじめに、また積極的に取り組んでいますか」の質問に対し「大変当てはまる」「当てはまる」と回答する生徒を全学年70%以上を目指す。 ② 教員への授業アンケートで「自ら学び取ろうとする姿勢を育てる授業の展開ができたか」の質問に対し「そう思う」「だいたいそう思う」と回答する教員70%以上を目指す。	2 ① [1学年] 64.4% [2学年] 65.1% [3学年] 73.4%  生徒全体 67.4% ② 「そう思う」 7.1% 「だいたいそう思う」 57.1%  教員全体 64.2%		
	活動計画	活動計画の実施状況		
1 前期・後期に各一週間すべての授業を公開し、他の教員の授業を参観し、点検することにより、自らの授業力の向上やスキルアップを図る。また参観される側も、参観シートで指摘を受けることにより授業実践力の向上を図る。	1 5月7日～11日と10月22日～26日の各一週間を公開授業週間とし、すべての授業を公開。3人以上の教員の授業見学を目標とし、見学後には参観シートへ記入した。参観シートには「参考になった点・自分の授業で生かせる点」や「この授業で注意・改善した方がいい点」を書く欄を設け、参観する側もされる側も授業実践力を向上できるようにした。参観シートは後日、参観された側へ返却した。			
2 生徒・教員へ授業についてのアンケートをとる。公開授業での他の教員の授業手法や、アンケートでの指摘等を取り入れ授業力向上を図る。	2 12月下旬に生徒と教員へ授業アンケートを実施した。公開授業週間の参観シートは各教員に返却し公表したが、その活用法は各個人に任せるにとどまっている。			
2 将来への目標を考えさせることを通して、学習意欲の向上と基礎学力の伸長を図り、就職・進学目標を達成する。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価 B  (所見) 評価指標関連については、概ね達成できた。しかし、各種資格試験・検定試験については、ワープロ検定しか指標を超えることができなかった。今後は、受検意欲を喚起する工夫を重点課題としたい。  ○ 検定や資格が、進学や就職、あるいは将来の仕事においてどのように活かされているかについて具体的な事例やデータを示し、検定受検や資格取得への意欲を高める。  ○ 校内漢字テスト対策として来年度は国語の授業で事前に確認テストを実施し、漢字検定合格につなげる。  ○ 家庭学習の定着に向けて、学習時間記録表をアンケート時以外の定期考査でも活用し生徒の意識高揚を図る。  ○ 今後も図書館便りや放課後読書会などを利用し、読書活動を啓発する。  ○ 1年生に早期に進路資料室の使い方を指導し、将来への目標を考えさせる。	
	1 学習意欲向上のため各種資格試験・検定試験の受検を推進し、全校生徒の30%以上の受検率を目指す。	1 ・数検受検者 H22年度 3.7% (36.4%) H23年度 6.0% (35.3%) H24年度 3.2% (62.5%) ・保育技術検定受検者 H22年度 17.6% (100%) H23年度 11.4% (100%) H24年度 18.3% (100%) ・ワープロ検定受検者 H22年度 39.2% (74.1%) H23年度 37.4% (56.2%) H24年度 37.1% (77.4%) ・漢検受検者 H22年度 37.2% (31.8%) H23年度 22.8% (34.4%) H24年度 20.3% (15.7%) ・英検受検者 H22年度 20.9% (30.6%) H23年度 17.8% (41.7%) H24年度 21.9% (36.4%)  * 受検率(合格率)		
	2 基礎学力養成のため校内漢字テストを実施し、事前指導を充実させることで、優秀者の割合を各学年において10%以上を目指す。	2 年間8回のテストにおける優秀者の割合 1年生16.4% 2年生21.9% 3年生28.2%		
	3 学習時間の定着を図るため家庭学習を促し、特に定期考査中、各学年において一人あたりの1日平均学習時間2時間以上を目指す。	3 一人あたりの1日平均学習時間 1年生2.4時間 2年生2.5時間 3年生2.4時間		
	4 学力向上を図るため読書活動を推進し、一人あたりの年間図書貸し出し数4冊以上を目指す。	4 一人あたりの年間貸し出し冊数 5.2冊 一人あたりの1ヶ月図書館利用回数 3.1回		
	5 将来の目標を立て実現するために、進路資料室の利用を促進し、利用者の割合を全校生徒の20%以上を目指す。	5 「よく」及び「ときどき」利用した者の割合は全校生徒の34.7% 1年生 2.2% 2年生 6.5% 3年生 26.0%		
	活動計画	活動計画の実施状況		
	1 教科担任や担任が積極的に受検を呼びかけ、取得すれば履歴書や調査書にも記入できることを低学年から知らせていく。	1 各HRや授業で全体に呼びかけるだけでなく、個人的な呼びかけも行った。また、1・2年生のHR活動において、資格や検定の重要性について指導した。		
	2 実施日に向けて国語科の授業で事前対策を実施し、また再テストなどの事後指導をホームルームや教科指導のなかで継続して行う。	2 国語科と担任が協力して事前指導を実施した。特に国語科の授業においては反復学習を実施した。また事後指導として、各HRで間違いを訂正して提出させたり、再テストを実施した。		
	3 考査期間中の6日間、家庭学習調査を実施することで、生活の見直しや学習の偏りなどを担任が声かけする。	3 家庭学習時間をSHRで記入させることにより、学習意欲を高めることができた。また、その記入内容を見て、担任が声かけをするきっかけとなった。		
	4 図書委員による広報活動や放課後読書会の回数を増やし定期的に行うことで、生徒が図書館を訪れる機会を設ける。	4 今年度新たな図書啓発活動として放課後読書会を実施した。その結果、図書館を頻りに訪れる生徒が友達を勧誘し、ともに図書館を利用することにつながった。		
5 1年次より、ホームルーム活動や総合学習の時間を利用し、資料室の活用方法を知らせる。	5 3年生には4月当初、2年生には10月の総合学習の時間を利用して進路指導室の使い方を指導した。1年生には2月に実施したが、アンケートには間に合わなかった。			

重点目標	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	総合評価	次年度への課題・改善策
3 1日の始まりを大切に遅刻指導を中心に、基本的生活習慣の確立を図るとともに、社会や学校のルールを守り正しい行動が取れる生徒を育成する。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	<p>○ 長期休業後の4月、9月、1月における再指導者数の合計が48名と、他の6回の再指導者数とほぼ同数となっている。長期休業が終了する直前に、担任を中心に気になる生徒に声掛けをするなどして登校前に髪を整えさせ、この3回の再指導者数を減少させたい。服装等については、特に目立つような乱れはあまり見られなくなったが、女子のスカートだけが相変わらず短いので指導していきたい。</p> <p>○ 遅刻者数は、目標を少なく設定したのでわずかに達成できなかったが、来年度は何とか達成したい。9月までは1日平均5人以下で推移しているのに、10月以降7人前後に増加した。例年の傾向で、ホームルーム活動や集会等で粘り強く呼びかけるなどして、この時期の遅刻者を減少させたい。</p> <p>○ 特別指導を受ける生徒の数は昨年度より減少しており、校内巡視、校外巡視が問題行動の未然防止に効果があったと思われる。今後も継続したい。</p>
	1 毎月行う髪・服装指導の再指導者数が1ヶ月平均8名(約3%)以下を目指す。	1 髪・服装指導の再指導者数は1年17名、2年43名、3年38名、延べ98名だった。 1ヶ月平均にすると10.9名(4.36%)と目標には届かなかった。 (平成22年度6.4%、23年度3.2%)	<p>B</p> <p>(所見) 髪・服装指導の人数は述べ98名と昨年度を上回ったが、普段の学校生活で特に目立つ乱れは認められなかった。ただ、毎年の傾向として長期休業後に再指導者の増加が見られる。  遅刻者数は昨年度より増加したものの、一昨年度までに比べかなり低く抑えられた。目標とした1日平均5人以下は達成できなかったが、10月以降の増加が原因と考える。  授業開始後に教室外にいる生徒はほとんどいなかった。特別指導の数は昨年度より減少し、特に学校周辺での問題行動は少なかった。校外巡視の効果と思われる。</p>	
	2 1年間を通した1日平均の遅刻者数が5人以下を目指す。	2 遅刻者数の推移 全校生徒に対する遅刻者数の割合 平成22年度3.8%(1日平均10.8人) 平成23年度1.6%(1日平均4.3人) 平成24年度2.1%(1日平均5.4人)		
	3 校内巡視・校外巡視が問題行動の未然防止につながり、特別指導を受ける生徒の減少を目指す。	3 校内巡視は、全教職員が交代で毎日実施。合計157日実施した。 授業中巡視は4月初めに8日間実施した。 校外巡視は午前中授業の日を中心に、合計43回実施した。		
	活動計画	活動計画の実施状況		
	1 毎月の髪・服装指導以外にも、随時気になる生徒を指導する。	1 毎月1回、合計9回実施した。学年別に全教員で取り組んだ。違反生徒は、後日学年主任、生徒課長が中心となり、改善が見られるまで再指導した。		
2 1週間に2回以上遅刻した生徒をその次の週に個別に指導する。	2 週2回以上遅刻した生徒に対しては、翌週、各学年の担当教員を中心に、特別に遅刻指導を実施した。			
3 計画的、継続的に校内巡視・校外巡視を行うとともに、気になる場合には随時巡視を強化する。	3 校内巡視は、基本的に毎日全教職員が交代で実施した。校舎内外の死角になりそうな場所を中心に巡視した。 校外巡視は、午前中で放課になる日を中心に、JR穴吹駅周辺、脇町の量販店周辺などを見て回った。			
4 1 月1回アースデー(環境を考える日)を設け、ゴミの分別と節電・節水を呼びかける。  2 エコキャップの回収を通し、環境に対する行動力を養う。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	<p>○ 高まった環境意識が持続できるよう、さらに活動を充実させていく。</p> <p>○ アンケート結果のフィードバックができていないので、「机の中にゴミを入れないでほしい」等の意見まで伝え、美化意識の低い生徒に働きかける方法を考える。</p>
	1 アースデーにおけるアンケートの回収結果。電気水道の使用量を前年度より3%減を目指す。	1 <アンケートの結果> 上段：H24年度の5月と1月の比較 下段：年度平均の比較 (H22→H23→H24) ①学校でゴミを拾った。 37%→43% (42%→53%→43%) ②自分のゴミはゴミ箱へ。 87%→84% (84%→84%→83%) ③ゴミの分別をした。 85%→84% (84%→84%→84%) ④節電・節水をした。 84%→84% (78%→77%→81%) <電気水道使用量> 電気：4～12月の電気使用125,461kw 前年度4～12月 130,766kw -5,305kw 前年度より4%減 水道：4～11月の水道使用2,189m <sup>3</sup> 前年度4～11月 2,814m <sup>3</sup> - 625kw 前年度より22%減	<p>A</p> <p>(所見) 評価指標関連については、概ね達成できた。美化委員も毎月よく活動し、生徒の環境意識を高めることに貢献した。生徒の一部に美化・環境意識の低い生徒がおり、対応に課題が残った。</p>	
	2 回収できたエコキャップの個数を前年度より3%増を目指す。	2 <エコキャップ個数> 5～12月の生徒一人あたりの個数79個 総数では20,048個 (前年度 48個 総数 12,770個) 個数31個増 64%増 総数7,278個増 56%増 目標の3%増を大幅に超えた。		
	活動計画	活動計画の実施状況		
	1 朝のSHRで美化委員が電気使用状況に加えゴミの分別・電気・水道の無駄遣いをなくし、エコを呼びかける。	1 アースデーは5月より1月までで8回実施した。(昨年度は6回) 美化委員は、朝のSHRで分別やエコを呼びかけ、昼休みに教室のエコキャップを回収し数を数え、帰りのSHRで行ったアースデーアンケートを集計した。		
	2 校内外の清掃美化活動(通学路・穴吹川)を行う。	2 通学路や学校周辺の清掃美化活動を行った。 5月：美化委員・JRC部(50名) 駅周辺 6月：野球部(30名) 学校からグラウンド 9月：運動部・JRC部(120名) 穴吹川周辺 11月：全校生徒 学校周辺		
3 家庭や地域にも呼びかけエコキャップの回収を行う。	3 教室以外の場所のエコキャップ個数調べは、JRC部員が行った。 年間随時、家庭からの回収を受けつけた。5～12月の総数20,048個のうち、家庭からは9,647個			

重点目標	評価指標と活動計画	評価	総合評価	次年度への課題・改善策	
5	1 生徒会活動、学校行事を通して、自主的、実践的な態度を育てる。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価 B (所見) 評価指標については達成度50%であった。清掃活動に関しては実施計画が十分でなかったため、月1回の実施ができなかった。 部活動関連は、部活動生集会や各部活動でさまざまな工夫がなされており、評価指標・活動計画ともに満足いく結果となった。昨年度と比較しても、入部率58%→69%、部活動生集会がより良い部活動の運営に役立ったと感じた顧問69%→92%と大幅に増加した。	○ 年度当初の計画に、清掃活動の実施日を設けるなど、計画的に清掃活動が実施できるよう工夫する。 ○ 学校行事により多くの生徒が積極的に参加できるよう、運営の在り方を考える。 ○ 部活動生集会を通して、より積極的に部活動に参加できるようにし、各部活動の連携もより密になるよう、部活動生集会の内容の工夫を考える。
		1① 通学路（穴吹駅周辺まで）の清掃活動を月1回実施する。	1①1月末現在までに4回しか実施できていない。		
	② 華の丘祭などの学校行事における生徒の満足度80%以上を目指す。	②「十分満足できた」 36% 「やや満足できた」 49% 「不満が残った」 15% 満足度 85%			
	2 部活動のより一層の活性化を図る。	2① 部活動の12月時点での入部率70%以上を目指す。	2①1, 2年生の入部率は69%		
		② 部活動生集会を年間3回以上開催する。	②部活動生集会は4月、6月、2月の年間3回実施した。		
		活動計画	活動計画の実施状況		
		1① 生徒会、部活動を中心に月1回、通学路（穴吹駅周辺まで）の清掃活動を行い積極的に環境美化活動に取り組む。	1① 校外の清掃活動は、部活動を中心として1月末までの間に各部活動で平均1回しか実施できていない。		
		② 華の丘祭が穴吹高生にとって一大イベントであることを理解させ、積極的参加を促し、成功への意識の高揚を図る。	② ホームルーム活動や全校集会、学年集会等の場で積極的参加を促す声かけを行った。また、1年生には過去の華の丘祭の映像を見せるなどして、成功への意識高揚を図った。生徒会役員は華の丘祭への積極的参加を促すプラカードを作成し、朝のあいさつ運動の時に掲げた。		
		③ 生徒会ならびに各ホームルームの生徒自身が主体的に企画、運営していけるよう適切な指導を行う。	③ 生徒会役員を中心として、ホームルーム役員を加えた華の丘祭実行委員会を組織した。準備は生徒自身が行ったが、企画や運営に関しては教師側が声をかけなくては動かない状況が多かった。		
		2① 部活動への積極的かつ継続的な参加を促す。	2① 部活動生集会や全校集会、学年集会等多くの機会をとらえて、部活動への積極的かつ継続的な参加を促す声かけを行った。		
② 部活動での活動を通して、所属感、連帯感を体感できる取り組みを工夫し、指導を行う。		② ミーティングをしっかりと行ったり、練習試合を多く取り入れ、他のチームの良い所に気づかせたりしている。団体競技の部活動では、メンバー全員で1点を取っていくという意識づけをさせたり、学校で会った時にこまめに声かけをしたりもしている。各部活動で工夫した指導が行えている。			
③ 部活動生集会を通して、全ての部活動で連携を図り、よりよい部活動の運営に努める。	③ 第1回部活動生集会では、部活動の意義や、穴吹高校の部活動としての共通理解を促した。第2回では、総体に向けての結束や、夏期のコンクールの作品への意欲づけを行った。第3回では、1・2年生の新チーム・新組織としての心構えを伝えた。部活動生集会がより良い部活動の運営に役立ったと感じた部活動顧問は92%だった。				
6	人権委員会の活動を活性化させるとともに、生徒の人権意識の高揚や人権感覚の育成を図る。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価 C (所見) 評価指標関連については、達成できなかったものもあったが、生徒の人権問題解消に取り組む姿勢には向上が見られつつある。	○ さらに生徒が主体的に活動できるように、ワークシートを改善する。 ○ 人権問題講演会や人権教育映画鑑賞会は生徒の興味・関心に合うものを精選する。 ○ 人権問題解消に向けての意欲を高めるために、人権問題を自分の問題として考えられるよう、身近で具体的な事例を取り上げる。
		1 人権の日に関するアンケートにおいて、「クラスが積極的に取り組めた」と回答する割合が70%以上を目指す。	1 「クラスが積極的に取り組めた」と回答した割合51%。		
		2 人権委員の企画・運営に関するアンケートにおいて、「運営がうまくいった」と回答する割合が80%以上を目指す。	2 「運営がうまくいった」と回答した割合52%。		
		3 人権問題講演会・人権教育映画鑑賞会の内容に関するアンケートにおいて、「とてもよかった」「まあまあよかった」と回答する割合が90%以上を目指す。	3 人権教育映画鑑賞会において、「とてもよかった」と回答した割合65%、「まあまあよかった」と回答した割合32%、合計97%。		
		4 1月に実施される人権問題意識調査において、人権問題解消に向けての意欲が、4月比3%以上向上を目指す。	4 1月に実施した人権問題意識調査において、人権問題解消に向けての意欲が、4月比2%向上。		
		活動計画	活動計画の実施状況		
		1 月1回「人権の日」を設け、人権委員を中心とした人権問題学習を実施する。	1 計画通り実施できた。		
		2 人権委員を中心とした、人権に関する意見発表会等の企画・運営を推進する。	2 生徒が司会・進行を務め、計画通り実施できた。		
3 人権問題講演会や人権教育映画鑑賞会を開催し、人権啓発を行う。	3 5月22日に人権教育映画鑑賞会を実施し、「あぜみちジャンピンッ！」を鑑賞した。				
4 年間2回（4月・1月）、人権問題意識調査を実施し、生徒の意識の変化を分析する。	4 計画通り実施し、人権教育教職員研修会などにおいて、結果を検討した。				